

東灘体育館再整備基本計画 (案)

2026 年 月

神 戸 市

目 次

第1章 はじめに

- 1 基本計画策定の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2 基本計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2章 現状と課題

- 1 既存施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3～4
- 2 既存施設の利用状況・課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～6
- 3 周辺環境の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第3章 全体計画

- 1 新体育館の計画地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8～9
- 2 全体コンセプト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 3 配置計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

第4章 基本方針

- 1 新体育館の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 2 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 3 導入機能・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14～16
- 4 必要諸室・規模の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

第5章 施設整備計画

- 1 平面計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- 2 階層計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- 3 構造・設備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- 4 外構計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
- 5 災害利用計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22～23

第6章 事業計画

- 1 概算事業費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 2 事業スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

第1章 はじめに

1 基本計画策定の背景

本市では、市民が日常的にスポーツ・健康づくりに取り組む場として、市内各地に地区体育館を整備してきました。東灘体育館をはじめとする地区体育館は、身近にスポーツに親しむ場として、多くの市民に親しまれており、地域における重要な生活インフラになっています。

一方、東灘体育館は建設後 50 年以上が経過しており、施設の老朽化が顕著となっています。また、市内の他の地区体育館と比較して床面積が狭いなど、利用者ニーズに十分に応えられていない状況にあります。こうした背景から、体育館の再整備に向けた基本計画を策定します。

2 基本計画の位置づけ

本計画は、東灘区魚崎南町の計画地を対象に、新体育館の目指すべき方向性や具体的な施設整備の方針など、新体育館の再整備に関する基本的な考え方を示すものです。

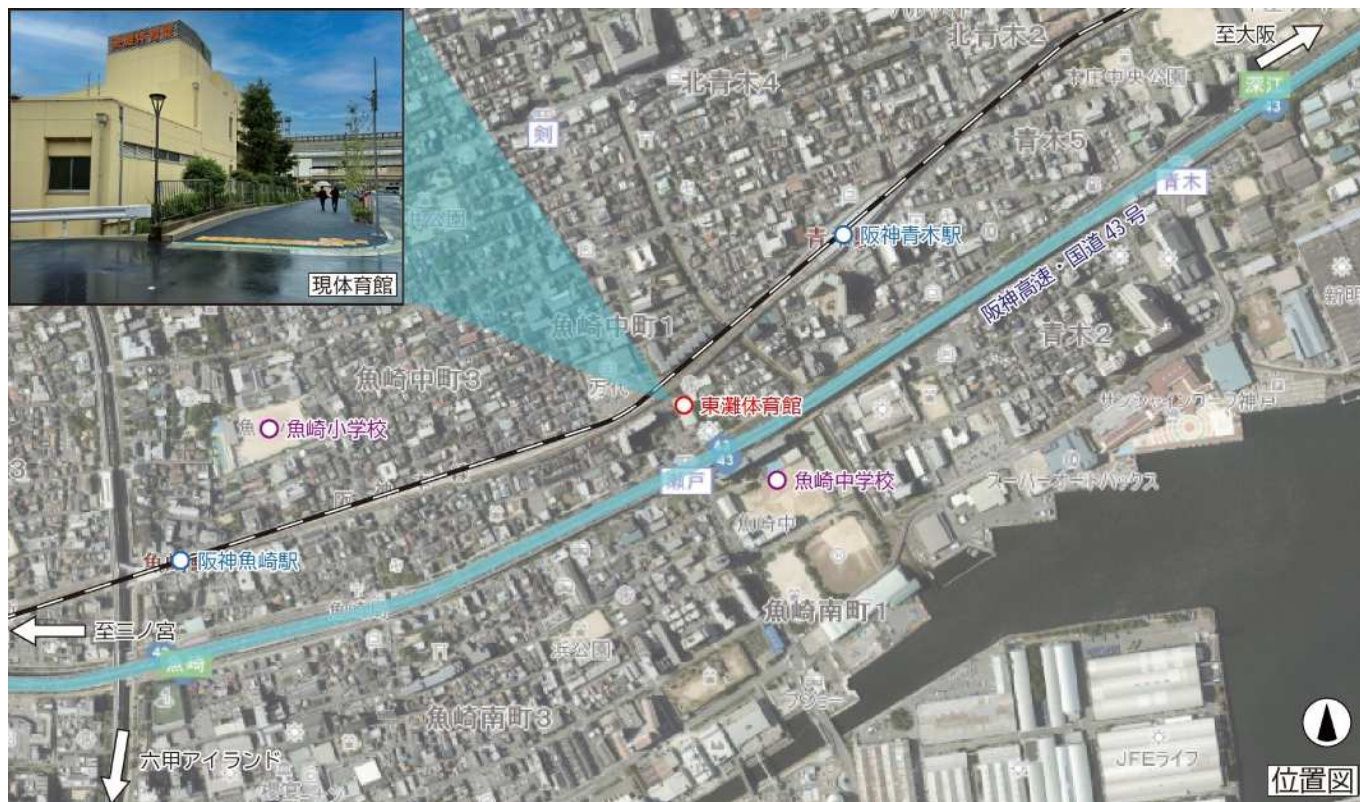
本計画では、「第6次神戸市基本計画」、「神戸 2030 ビジョン」、「神戸市都市計画マスタープラン」、「神戸市スポーツ推進計画」等の上位計画・関連計画との整合性を図りながら、施設の導入機能・規模、配置・ゾーニングの考え方、防災機能のあり方、事業推進に向けた必要事項をとりまとめ、この後に続く基本設計・実施設計の指針とします。

また、老朽化した体育館の更新にとどまらず、隣接する公園・保育所との一体的な再整備を契機に、地域の魅力と利便性を高めることができるよう、本計画を推進します。

第2章 現状と課題

1 既存施設の概要

現在の東灘体育館は、阪神青木駅と魚崎駅の間に位置しており、阪神電鉄と国道43号に挟まれた街区内で魚崎南町公園、瀬戸保育所と隣接しています。



既存施設の概要は下表の通りです。

施設 情報	所在地	神戸市東灘区魚崎南町6丁目5番11号	
	竣工時期	1975年12月（築51年）（参考）2013年度耐震補強工事、2017年度昇降機棟傾斜改修工事 他	
	延床面積	1,499㎡	
	構造・階数	鉄筋コンクリート造2階建て 一部鉄骨造	
	施設構成	・競技場（約540㎡） ・体育室（約216㎡） ・トレーニング室（約72㎡） ・更衣室、シャワー室 ・駐車場（約10台） ・駐輪場（約20台）	
利用 情報	開館時間	月曜～土曜：9：00～23：00 日曜・祝日：9：00～21：00 （開館は8：45～）	
	休館日	偶数月第1月曜日 年末年始（12月29日～1月3日）	
備考		地域防災計画に基づき、緊急避難場所（土砂災害時）、避難所に指定されている	
施設写真			
		▲競技場の様子	▲体育室の様子
			
		△トレーニング室の様子	▲倉庫（競技場）の様子
			
		△ラウンジ前スペースの様子	▲玄関の様子

2 既存施設の利用状況・課題

東灘体育館の利用状況などについて、2025 年度の利用者アンケート結果と現地調査をもとに整理します。

(1) 利用状況（利用者アンケート結果から読み取れる主要傾向）

①利用者構成

- ・幅広い世代が利用しているが、60 歳以上が約 5 割となっている。
- ・東灘区内在住の利用者が約 9 割となっている。

②利用施設・種目

- ・利用状況は、競技場利用が約 4 割、体育室利用が約 3 割、スポーツ教室・イベント利用が約 2 割となっている。
- ・主な種目は、卓球・バドミントン・バレーボールであり、教室参加も多くみられる。
- ・利用人数の構成は、個人利用から団体利用まで幅広くみられる。

③利用目的

- ・「健康維持」「体力向上」が約 6 割を占め、日常的・継続的な健康活動ニーズが高い。
- ・「仲間との交流」「ストレス発散」のニーズも約 2 割あり、交流機能・コミュニティ機能への期待がみられる。
- ・「競技力向上」も一定数あり、大会・クラブ練習のニーズも存在している。
- ・「ダイエット」については、少数ではあるもののニーズがある。

④利用頻度

- ・「週 1 回」が 5 割強、「週 2～3 回」が約 3 割となっており、週 1～3 回程度の定期利用者の割合が高い。
- ・なお、時間帯を問わず、競技場及び体育室は 90%以上の利用率となっている。

⑤教室・イベント等への満足度

- ・教室充足率は高く、満足度が高くなっている。イベントにおいても同様である。
- ・総合満足度は極めて高い。

(2) 既存施設の課題

①建築面

- ・競技場の規模（床面積）が小さく、競技種目の分散利用や大会利用など様々な用途の同時利用に対応しづらい。
- ・施設の可変性について、体育室では可動の間仕切りがなく、イベント・講座と競技の両立が難しい。
- ・収納については、器具庫・倉庫が狭く、用具管理や大会準備の効率が低い。
- ・ロビー・ラウンジ等では、利用前後の交流や待機のための滞留スペースが乏しい。

②設備面

- ・トイレ等で一部設備の仕様が古いほか、空調設備等の機能が十分ではない。

③アクセシビリティ・交通動線

- ・駐車場の出入りがしづらいことや、歩行者と車両が同じ箇所から出入りしていることなど、来館する利用者の利便性や安全性が十分ではない。

④安全・防災面

- ・既存施設は耐震補強が実施されているものの、施設・設備の老朽化が進んでいる。
- ・緊急避難場所（土砂災害時）、避難所として指定されているが、備蓄スペースや物資の搬入動線が十分ではなく、防災拠点としての機能向上が求められる。

⑤多様性への対応

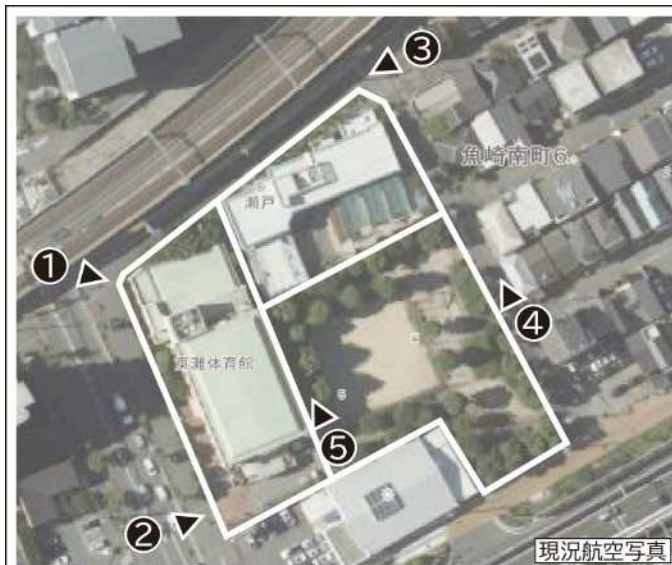
- ・授乳室や乳幼児対応のトイレなど、誰もが使いやすい設備が十分ではない。
- ・多言語表示など、外国人に向けた対応が不足している。

(3) まとめ

- ・健康増進や生涯スポーツ活動を支える身近なスポーツ施設として高い利用ニーズがあり、今後も幅広い世代が継続的に利用できる快適な環境づくりが求められています。
- ・既存施設は施設・設備の老朽化に加え、競技利用、交流利用、大会利用など多様化する利用形態への対応がやや不足しており、利便性と機能性の向上が必要です。
- ・ユニバーサルデザインへの対応や防災拠点機能の強化を図り、平常時は身近なスポーツ拠点、災害時は地域の防災拠点として機能する施設整備が求められています。

3 周辺環境の整理

新体育館の配置・動線計画等を検討するにあたり、計画上の課題や配慮すべき事項を抽出するために、周辺環境の分析・整理を行います。



①北側道路との境界（既存体育館の北西側）



②既存体育館への出入口（既存体育館の西側）



③北側道路



④東側道路



⑤既存体育館と既存公園の境界



第3章 全体計画

1 新体育館の計画地

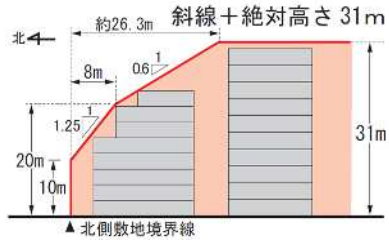
(1) 計画地の想定

新体育館の計画地は、現在の東灘体育館の東側に隣接する保育所用地及び公園用地の一部とします。大阪都心部と神戸都心部の中間に位置する、神戸市東部における中核的な住宅・産業エリアであり、阪神電鉄、国道43号が通るなどアクセス性に優れています。



(2) 敷地条件の整理

敷地条件及び施設整備に係る主な関係法令・基準等は下表の通りです。

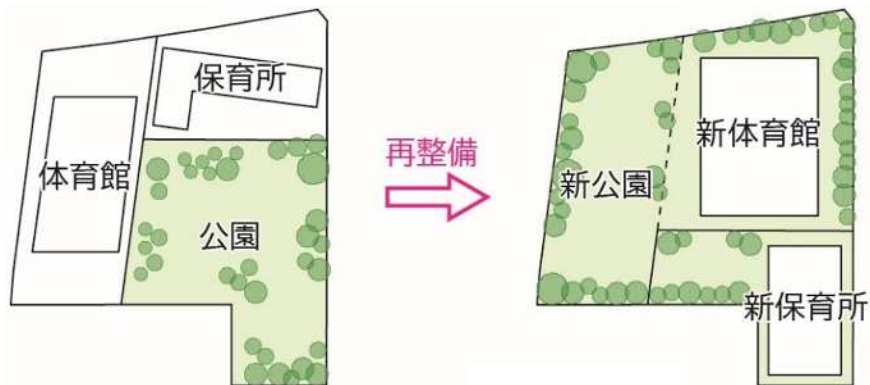
敷地概要	
地名地番	兵庫県神戸市東灘区魚崎南町 6 丁目 332-3, 332-5
都市計画区域等	市街化区域
用途地域	第 1 種住居地域
建築物用途制限	運動施設の用途に供する床面積：3,000 m ² 以下
防火・準防火地域	準防火地域
その他の区域	第 5 種高度地区、宅地造成工事規制区域
道路	東側（魚崎瀬戸 1 号線）：幅員 6.5-6.6m、北側（魚崎瀬戸 5 号線）：幅員 7.1m
敷地面積	約 2,400 m ²
基準容積率	300% （最大≦約 7,200 m ² ※用途上 3,000 m ² 以下）
基準建ぺい率	60%+角地緩和 10%+準防火地域（耐火建築物相当）10%=80% （最大≦約 1,920 m ² ）
高さ制限	斜線+絶対高さ 31m（第 5 種高度地区） 
道路斜線	あり：勾配 1.25（適用距離 25m）
隣地斜線	あり：勾配 1.25（立ち上がり 20m）
北側斜線	なし
日影規制	5m：5 時間、10m：3 時間（測定面：4m）
必要駐車台数	附置義務なし
必要駐輪台数	附置義務なし
緑化基準	敷地：空地面積の 50%以上、建築物：建築面積の 5%以上（市条例） 建築物：屋上面積の 20%以上（県条例）

2 全体コンセプト

「開かれた緑のスポーツパーク」

～スポーツ・憩い・子育てがつながる、地域みんなの居場所づくり～

東灘体育館の建替えでは、老朽化した施設の更新にとどまらず、隣接する公園・保育所との一体的な再整備を契機に、「スポーツ」「憩い」「子育て」の機能をつなぎやすくして、地域全体の魅力と利便性を高めます。



そこで、「地域に愛され、持続可能な多機能スポーツ拠点」を礎としながら、公園・保育所と一体的に整備される本計画ならではの価値として、「つながり」「開かれた空間」「緑との共生」の3つを重ね合わせたコンセプトを掲げます。

スポーツをするためだけに訪れるのではなく、ただそこにいて心地よく、地域の人々が日常的に立ち寄り、気づけばつながっている—そのような”まちの縁側”的な居場所づくりを目指します。

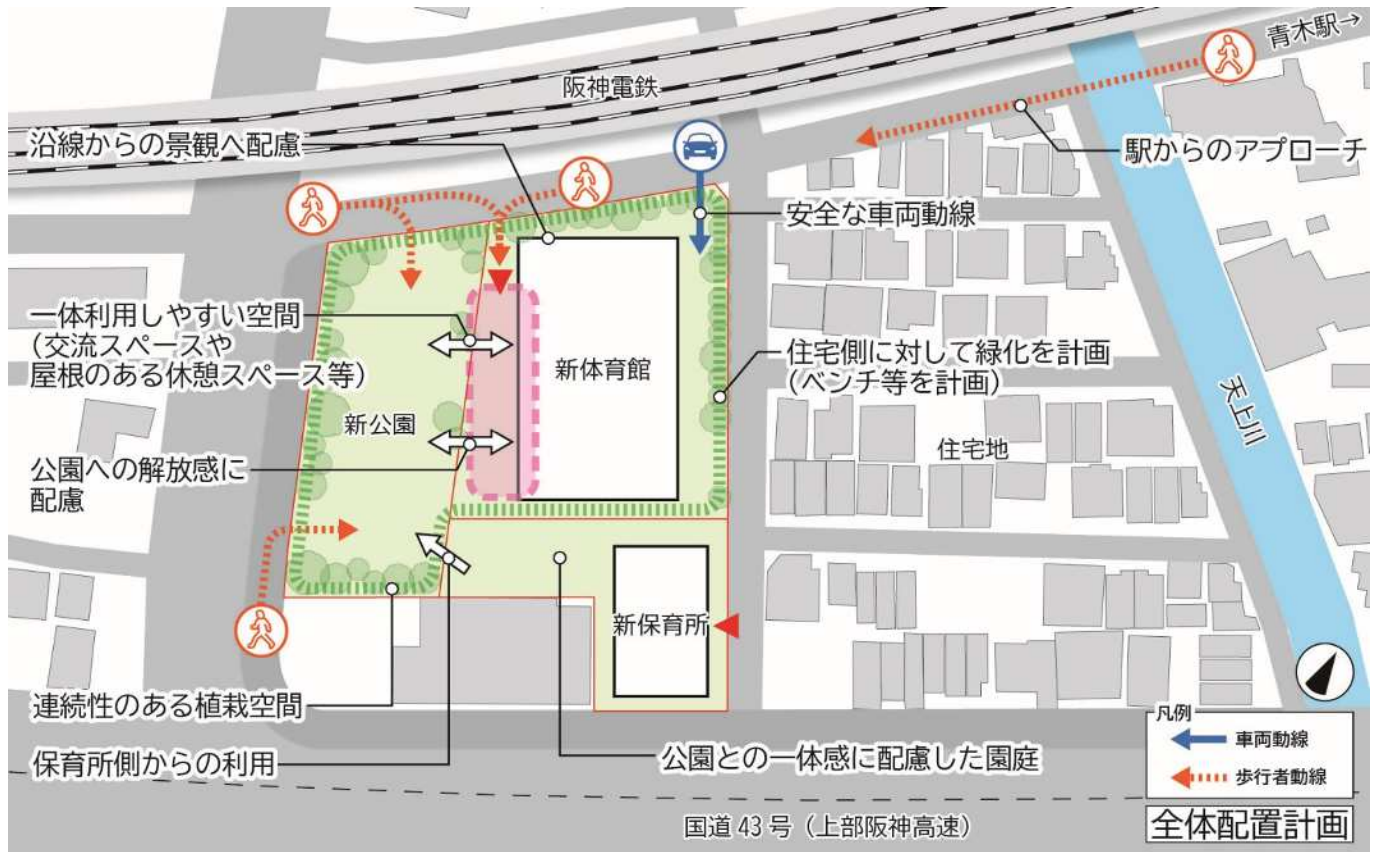
<全体計画のイメージ>



3 配置計画

全体コンセプトをもとに、現段階において想定する配置イメージを以下に示します。なお、建物及び動線などはあくまでもイメージであり、決定したものではありません。

<配置計画のイメージ>



<配置計画の考え方>

- ・敷地への動線は、敷地北側の道路からのアプローチを基本とします。
- ・車両出入口は、歩行者出入口から離れた位置に設けることで、歩車分離による歩行者の安全性を確保します。また、車両出入口は入口と出口を分離して一方通行とするなど、車両動線を明確化し、安全かつ円滑なルートを確保します。
- ・敷地西側の公園と隣接する箇所については、一体利用も視野に入れたつながりのある空間計画とします。

第4章 基本方針

1 新体育館の役割

新体育館は、スポーツ活動の場にとどまらず、子どもから高齢者まで、障がいの有無にかかわらず、誰もが自然に集い、交流し、互いに学び合える「日常の居場所」として機能することを基本とします。

■平常時の役割

朝は高齢者の健康体操、昼は子育て世代の親子教室、夕方は学生の部活動、夜は社会人のスポーツサークルといった時間帯ごとの利用とあわせて、競技とイベントの両立や複数競技の同時利用など、時間軸・空間軸の双方で多様な利用が重なり合う場とします。

また、深い軒下や屋根付き広場、開放的な交流・休憩スペースを設けることで、建物の内と外、公園とまちを緩やかにつなぎ、地域全体に回遊性と賑わいをもたらす計画とします。

このように、平常時には日常の健康づくりの場とともに、自然な交流と出会いが生まれる施設を目指します。

■災害時の役割

現在の東灘体育館は、地域防災計画に基づき、緊急避難場所（土砂災害時）、避難所として指定されています。新体育館においても引き続き、災害時には地域の防災拠点としての役割も担い、地域の安全・安心を支える施設を目指します。

なお、洪水・津波による浸水想定区域内の施設は、屋内の緊急避難場所に指定されておらず、東灘体育館の場合は、新設後も洪水・津波時は阪神電鉄北側の「魚崎小学校」へ避難することになります。

2 基本方針

新体育館の計画及び整備は、6つの基本方針に基づいて行います。

1 スポーツ機能の充実

「地域のために」—質の高い競技・運動環境の整備

競技スポーツから生涯スポーツまで幅広い活動に対応できる空間を整備します。区民の大会・イベント・日常利用などに対応できるよう、多様な種目・活動規模に応じた複数の運動空間を設け、地域の継続的なスポーツ活動を支援します。

2 体力づくり・健康づくり機能の充実

「誰もが、毎日、気軽に」—生涯を通じた健康を支える環境の整備

日常的な健康増進・体力維持に対応した運動環境を整備します。世代やライフステージに応じた多様な健康づくりプログラムを受け入れられる空間を確保し、誰もが継続的に健康づくりに取り組める環境を目指します。

3 交流・コミュニティ機能の充実

「出会い・つながり・開かれた場」—一人が集まり憩える空間づくり

開放的な空間構成により地域の賑わいと施設利用への関心を高めるとともに、公園・保育所と連続する動線計画により誰もが安心して立ち寄れる環境を整備します。また、施設利用の前後や合間に自然と人が集まり憩える空間を建物の内外に設けます。

4 ユニバーサルデザインの実現

「あらゆる人が使いやすく」—誰もがストレスなく利用できる施設設計

バリアフリー動線・多機能トイレなどの整備により、子育て世代・幼児・高齢者など多様な利用者への配慮を空間計画に組み込みます。

5 環境配慮の推進

「次の世代へ」—環境への配慮や緑との共生を意識した施設整備

省エネルギー・再生可能エネルギーの活用により環境負荷の低減を目指すとともに、公園と一体的な空間となるように緑の連続性に配慮します。

6 防災拠点機能の強化

「平常時も、非常時も」—地域の安全・安心を支える施設整備

地域の防災拠点としての機能を確保するとともに、平常時から非常時へ円滑に切り替えられる空間・設備計画を実現し、要配慮者を含むすべての利用者が安全に行動できる動線計画とします。

3 導入機能

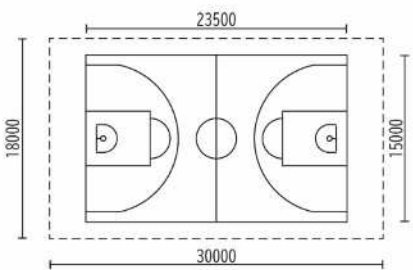
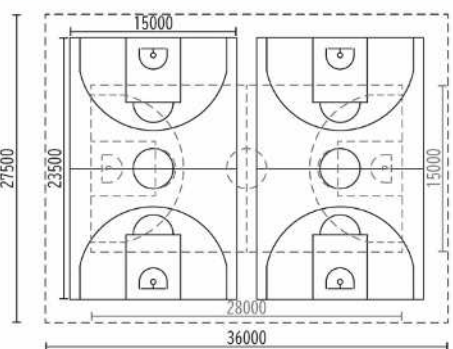
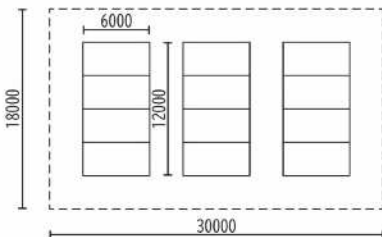
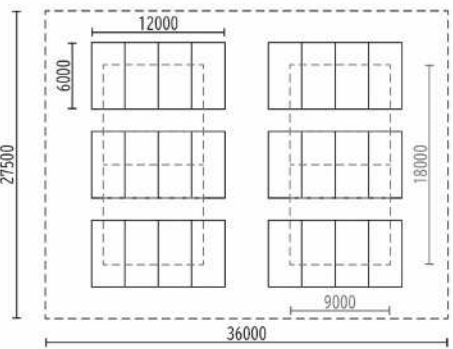
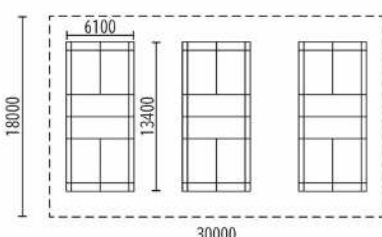
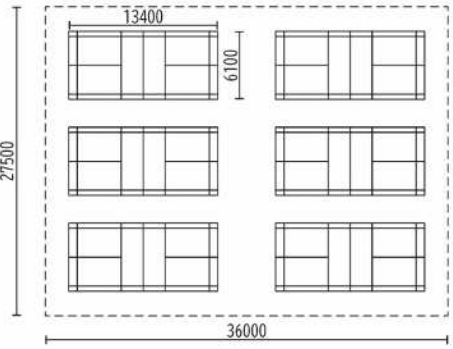
6つの基本方針を実現するために、新体育館に必要な機能と主な諸室を以下に整理します。詳細に関しては、より魅力的な施設とするため、施設の配置・動線計画、維持管理・運営など、今後の検討により変更となる可能性があります。

【スポーツ・健康づくり機能】

■競技場（メインアリーナ）

- ・現在の競技場の概ね2倍の広さ（バスケットボールコートの場合は2面、家庭用バレーボールコートやバドミントンコートの場合は6面）を確保します。
- ・バスケットボールやバレーボール、バドミントンなどの各種競技に支障がない室形状・天井高さとします。
- ・高所の照明など点検用として、キャットウォークを計画します。

<コートレイアウト例>

競 技	現体育館競技場（約 540 m ² ）		新体育館競技場（約 1000 m ² ）	
バスケットボール	1面（非公式） 		2面（非公式）  ※公式バスケットボールは1面	
バレーボール	3面（家庭用） 		6面（家庭用）  ※公式バレーボールは2面	
バドミントン	3面（公式） 		6面（公式） 	

■多目的室（サブアリーナ）

- ・卓球や軽運動・武道利用など、多様な種目・活動利用が可能な多目的室を計画します。
- ・利用目的に応じて畳を設置するなど、柔軟に対応できる計画とします。
- ・活動規模に応じて分割して利用できるように、可動の間仕切りを検討します。

■トレーニング室

- ・トレーニングマシンやフィットネス器具などの健康増進に対応した設備を設け、スポーツの経験や年齢に関係なく、誰もが気軽に利用できるスペースとします。
- ・ストレッチスペース、相談コーナーを確保します。

■倉庫

- ・競技場、多目的室、トレーニング室において、各室面積の約 15%分を確保します。
- ・各種運動器具や備品を直接出し入れできる位置に計画します。

■更衣室・シャワー室

- ・競技場、多目的室、トレーニング室の利用者用として、更衣室を計画します。
- ・ロッカー、シャワー室、洗面化粧台等を設置します。

【交流・コミュニティ機能】

■エントランスホール

- ・隣接する公園の利用者や、保育所への送迎の保護者も含めて、誰もが憩うことができるスペースとします。

■交流・休憩スペース

- ・施設利用前後の交流・情報発信の場として、交流スペースをエントランスに近接して計画します。
- ・施設利用者の他、公園利用者も自由に休憩・談話できる空間として、休憩スペースを確保します。

■キッズスペース・授乳室

- ・子育て世代が快適にスポーツを楽しむため、乳幼児と保護者が遊べるようなキッズスペースや授乳室を計画します。

【ユニバーサルデザイン】

■誰もが使いやすいトイレや更衣室

- ・異性介助を考慮し、男女共用で使いやすい計画とします。
- ・利用者の集中の緩和を考慮し、一般トイレ内にも車椅子利用者配慮ブースを設置します。
- ・男女のトイレそれぞれにおむつ替えシートを設置します。
- ・障がい者・介助者・オールジェンダーが利用しやすい更衣室を計画します。

■サイン計画

- ・施設内外において、利用者が迷わずストレスなく利用できるよう、視認性・誘導性に優れたサイン計画とします。

■受付カウンター

- ・車いす使用者、高齢者、障がい者、外国人など多様な利用者を想定した使いやすい計画とします。

【環境配慮】

■環境に配慮した施設

- ・「神戸市地域温暖化防止実行計画」に基づき、ZEB oriented (※1) 相当以上の省エネルギー性を確保するため、外皮の断熱性能向上や高効率な設備機器の導入を検討し、ライフサイクルコストの最小化、温室効果ガスの削減、エネルギーコストの節約を目指します。
- ・太陽光発電など自然エネルギーの導入や屋上等の緑化を検討するなど、周辺地域や地球環境に配慮した施設整備を図ります。
- ・近年の猛暑日・酷暑日の増加を考慮し、利用者が快適にスポーツを楽しむことができるよう、省エネルギー性に優れた空調設備を各諸室に導入します。

■木造化・内外装材の木質化

- ・構造躯体の一部を木造化するなど、魅力的な空間づくりを目指します。
- ・内外装材に地域産木材を使用することで環境と共生した温かみのある豊かな空間とします。

【防災拠点機能】

■防災備蓄倉庫

- ・隣接する公園とともに、地域の防災拠点施設として機能するよう、災害発生時の応急・復旧に必要な備品・資材を保管する備蓄倉庫を設置します。

■事業継続計画（BCP）への対応

- ・災害発生時においても設備機能の喪失を防止するため、高所への設置や止水対策、防水対策等を検討し、施設機能の継続に必要な電力を確保できる計画とします。
- ・非常用発電機系統との連携など、多様なエネルギー供給手段の導入を検討し、事業継続性及び防災機能の強化を図ります。

【その他管理・サービス機能】

■管理諸室

- ・管理諸室として、事務室、救護室、職員更衣室、休憩室を計画します。
- ・事務室は、エントランスホールに面して受付窓口を設置し、貸出の予約受付、鍵の受渡しができる計画とします。

■機械室・電気室・設備室等

- ・将来的なメンテナンスや更新を見据え、十分なスペースを確保します。
- ・受変電設備や非常用発電機については、津波や浸水等の自然災害による被害を最小限に抑えるため、想定される浸水深やハザード情報を踏まえた配置計画とします。

■廊下・階段・エレベーター等

- ・年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが安全に移動できるよう、ゆとりある計画とします。

※1・・・ZEB Oriented：外皮の高性能化及び高効率な省エネルギー設備に加え、更なる省エネルギーの実現に向けた措置を講じた建築物で、省エネルギー技術を積極的に導入し、建築物全体の一次エネルギー消費量（空調・照明・換気・給湯・昇降機など）を基準値から30%以上削減するもの。

4 必要諸室・規模の設定

新体育館における必要諸室等及びその機能、規模設定の考え方を以下に示します。なお、必要諸室については、今後の検討により変更となる可能性があります。

＜必要諸室の目安＞

諸室	床面積 (㎡)	備考
競技場（メインアリーナ）	1,000	バスケットボール、家庭用バレーボール、バドミントンなどを想定（天井高さは12m以上）
多目的室（サブアリーナ）	230	卓球、軽運動、武道利用などを想定（可動の間仕切りを検討）
トレーニング室	100	相談コーナー、ストレッチコーナーを計画
倉庫	200	競技場、多目的室、トレーニング室に設置
キッズスペース・授乳室	20	
トイレ	60	各階に計画（多目的トイレを含む）
更衣室・シャワー室	80	
管理・事務室・受付等	100	備蓄倉庫を含む
設備関係諸室	100	機械室、電気室を想定（屋上や屋外の場合もある）
交流スペース	-	共用部との兼用の場合もある
休憩スペース	-	共用部との兼用の場合もある
防災備蓄倉庫	50	
廊下・階段・EV等	760	
駐車場等	300	ピロティ部分を想定
合計	3,000	

※留意事項

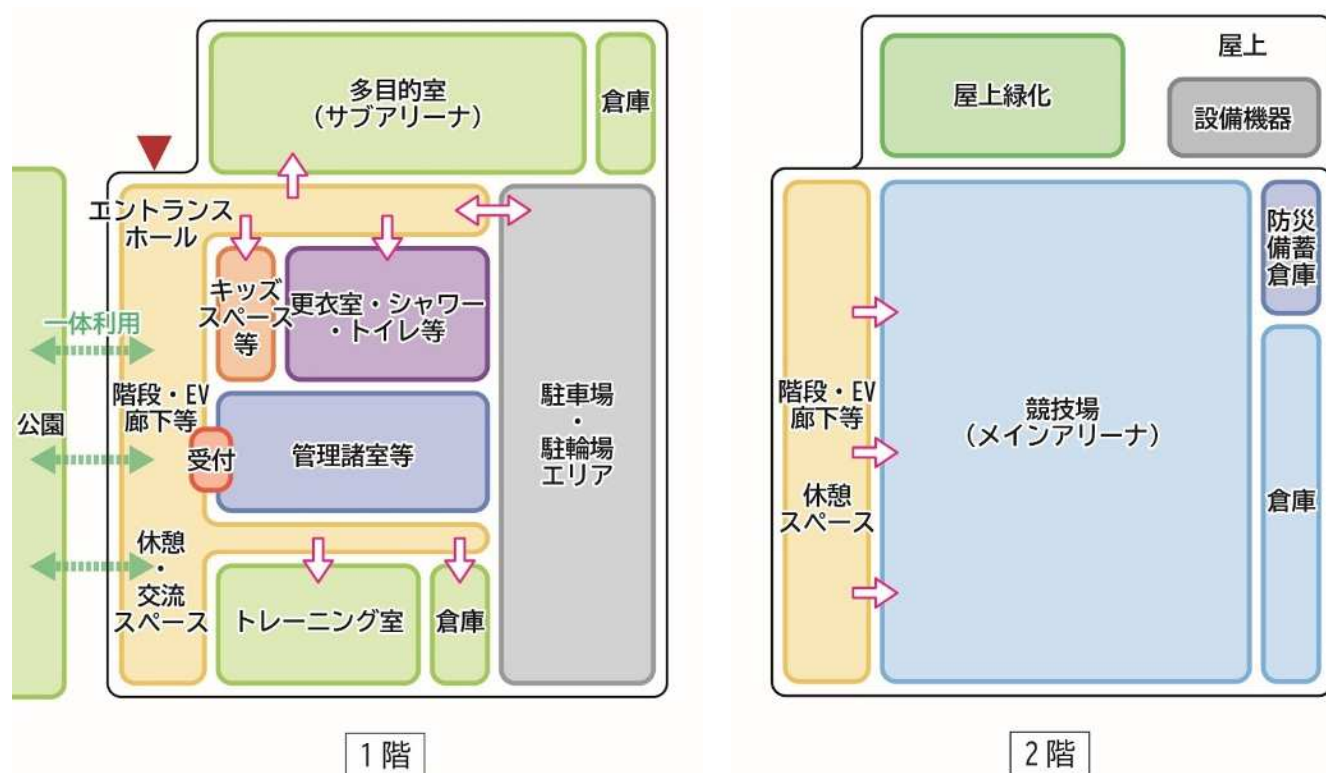
- ・全体延床面積は3,000㎡以内を基準として、今後の詳細検討において各室面積を調整するものとします。
- ・室内は上下足履き替えを基本とします。

第5章 施設整備計画

1 平面計画

全体計画をもとに、現段階において想定する平面計画のゾーニングイメージを以下に示します。なお、各所室や共用部等の配置形状はあくまでもイメージであり、決定したものではありません。

＜平面計画のゾーニングイメージ＞



＜平面計画の考え方＞

【1階】

- ・公園との一体利用も考えられるため、公園に面した位置にエントランス空間、休憩スペース等を計画します。
- ・受付をエントランスホールに面した位置に配置し、管理運営が効果的かつ効率的に行える配置とします。
- ・多目的室やトレーニング室は、共用エリアから利用しやすい平面レイアウトとします。
- ・子育て世代や保育所への送迎時の保護者にも利用しやすいように、エントランスホール近くにキッズスペースや授乳室を計画します。

【2階】

- ・限られた敷地であることから、専有面積や天井高さが必要となる競技場（メインアリーナ）を2階に計画します。

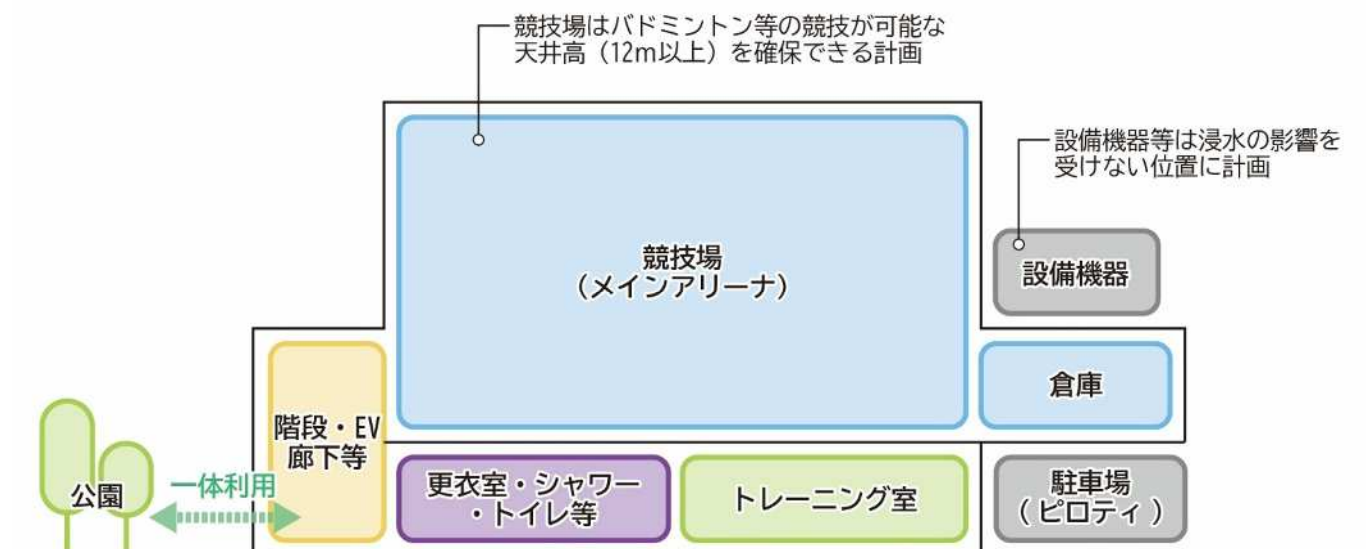
【屋上】

- ・平面計画に応じて、屋上等に各種設備機器の設置スペースを適宜設け、管理用のメンテナンス動線を確保します。
- ・緑化基準に基づき、屋上等で緑化を適宜設けます。

2 階層計画

現段階において想定する階層計画のイメージを以下に示します。なお、ここで示す階層構成はあくまでもイメージであり、決定したものではありません。

<階層計画のイメージ>



3 構造・設備計画

(1) 構造計画

現在の東灘体育館は、地域防災計画に基づき、緊急避難場所（土砂災害時）、避難所として指定されており、新体育館においても引き続き、地域の防災拠点として機能することを鑑み、耐震安全性を検討します。

(2) 設備計画

【電気設備】

①電灯設備

- ・屋内競技において定められた照明基準を確保するとともに、競技に影響が出ないよう設置位置に配慮します。
- ・省エネルギーや長寿命化に配慮し、維持管理がしやすく、ライフサイクルコストの縮減が図れる照明機器を設置します。
- ・昼光センサーや人感センサーと連動した照明制御システムにより、省エネルギー化を図ります。

②通信設備

- ・利用者の利便性に配慮し、Wi-Fi 環境を整備します。
- ・館内放送、競技計時、映像表示などの各システムが連携できるよう、総合的な通信基盤整備を検討します。

【機械設備】

①空気調和・換気設備

- ・全館冷暖房設備を完備し、誰もが快適に利用できる環境整備を図ります。
- ・競技場（メインアリーナ）等の天井の高い空間は、上下温度差を抑制するため、居住域を効率よく空調できる方式とし、快適性と省エネルギーの両立を図ります。
- ・空調や換気による風速の影響を受けやすい競技に配慮した設備計画を検討します。

②給排水設備

- ・衛生面や維持管理の容易さに配慮するとともに、節水型器具の導入により日常的な水使用量の削減を図ります。
- ・給水は断水時のバックアップを考慮した計画とします。

4 外構計画

体育館の再整備にあたり、隣接する公園や保育所との関係性、周辺地域へ配慮した外構計画とします。

①公園と一体的なオープンスペース

- ・全体計画での配置計画等を踏まえ、体育館利用者が効率的かつ快適にアクセスできるよう動線に配慮します。
- ・体育館利用者だけでなく、公園利用者にとっても憩いや交流の場として活用できるよう、明るく開かれた空間づくりを目指します。
- ・オープンスペースでは、外部電源の設置などイベント等での利用も想定した設えを想定します。
- ・公園の植栽や広場スペース等と体育館の外構空間が緩やかに連続し、建物内へ自然に人が誘われるような空間づくりを目指します。

②バリアフリー・ユニバーサルデザイン

- ・駐車場から建物入口まで段差のないバリアフリー経路を確保し、車いす・ベビーカーが安全に移動できるよう配慮します。
- ・スロープ、段差解消、手摺等を適切に配置し、高齢者・障がい者・子育て世代がストレスなくアクセスできる計画とします。

③植栽・緑化

- ・敷地全体を通じて、隣接する公園や保育所と緑の連続性のある植栽計画を目指します。
- ・利用者が緑の豊かさを視認できるよう、アイレベル（目線の高さ）にも植栽を配置します。

④雨水排水

- ・現状の雨水排水を踏まえ、既存の排水経路に沿った排水計画とします。

⑤駐車場・駐輪場

- ・駐車場・駐輪場については、歩車分離に配慮して適切に配置します。
- ・1台あたりの駐車スペースについては、現状より広い計画とします。

5 災害利用計画

新体育館においては、災害時における避難者の安全確保に配慮し、避難スペース、支援物資の保管・供給機能、非常時のライフライン機能等を適切に配置します。

また、平常時の体育館利用と災害時の避難施設利用を円滑に切り替えることができるよう、施設の動線やユニバーサルデザイン等に配慮した計画とします。

①避難スペースの収容人数・配置計画

災害時に多くの避難者を受け入れられる空間を確保するとともに、高齢者や障がい者、妊産婦、乳幼児連れの方などにも配慮した避難スペースのあり方を検討します。また、避難生活におけるプライバシーや居住環境にも配慮した計画とします。

②備蓄倉庫・資機材保管スペースの確保

食料や飲料水、簡易トイレ、間仕切りなど、避難所運営に必要な資機材を保管するためのスペースを確保します。また、支援物資の搬出入や管理がしやすい配置について検討します。

③非常時のライフライン機能の確保

災害時に停電や断水が発生した場合でも、避難施設として必要な機能を維持できるよう、非常用電源や給排水設備などの確保を検討します。

④避難者の受入れに必要な動線の確保

災害時に避難者が安全かつ円滑に施設を利用できるよう、わかりやすい動線や出入口計画を検討します。また、必要に応じて公園側のオープンスペースと連携して、支援物資を運ぶ車両が利用しやすい搬入経路や荷捌きスペースの確保にも配慮します。

⑤要配慮者への対応

高齢者や障がい者をはじめ、誰もが安心して利用できる施設となるよう、バリアフリー化を図ります。また、多目的トイレや授乳室などの整備を検討するとともに、多言語表示や分かりやすい案内サインについても検討します。

⑥トイレ計画

避難所としての利用を見据え、女性や高齢者、障がい者などに配慮したトイレ計画を検討します。平常時と災害時の双方で利用しやすい配置とするとともに、災害時には利用状況に応じて柔軟な運用ができる計画とします。

(参考) ハザード情報の整理

計画地周辺の浸水想定区域等は下表の通りです。

項目	ハザードマップ	備考
避難所マップ		現東灘体育館は地域防災計画において緊急避難場所（土砂災害時）、避難所として指定されている。 洪水時、津波時は浸水が想定されており、「阪神電車より北へ、丈夫な建物の3階以上へ」が基本的な避難の考えとなっているため、洪水・津波の際は、阪神電車北側の「魚崎小学校」へ避難することとなっている。 ※神戸市情報マップ、土砂災害・水害ハザードマップより
河川の洪水による浸水想定区域		▼河川の洪水による浸水想定区域（想定最大規模降雨） - 洪水浸水深0.5m未満 - 洪水浸水深0.5m以上3.0m未満 - 洪水浸水深3.0m以上5.0m未満 - 洪水浸水深5.0m以上 河川の洪水による浸水想定は、0.5m以上～3.0m未満の浸水が想定されている。 ※神戸市情報マップより
津波による浸水想定区域		▼津波による浸水想定区域（兵庫県想定_2014年2月公表） - 津波浸水深2.0～3.0m未満 - 津波浸水深1.0～2.0m未満 - 津波浸水深0.3～1.0m未満 - 津波浸水深0.3m未満 津波による浸水想定は、0.3～1.0m未満の浸水が想定されている。 ※神戸市情報マップより
高潮による浸水想定区域		▼高潮による浸水範囲（堤防等が破堤する場合） 0.0～0.3m未満の区域 0.3～0.5m未満の区域 0.5～1.0m未満の区域 1.0～3.0m未満の区域 3.0～5.0m未満の区域 5.0m以上の区域 高潮による浸水想定は、1.0～3.0m未満の浸水が想定されている。 ※神戸市情報マップより

第6章 事業計画

1 概算事業費

新体育館等の再整備に必要となる概算事業費を以下に想定します。今後、近年の資材単価や労務単価の上昇傾向等を考慮し、精査を重ねていきます。

<概算事業費（税込）>		
項 目		概算事業費（円）
体育館	新築・既存解体事業費	約 30 億
公園	整備・既存撤去事業費	約 1 億
保育所	新築・既存解体事業費	約 5 億
合 計		約 36 億

※概算事業費は 2026 年 7 月時点の目安であり、今後変更となる可能性があります。
※保育所の新築は、民間事業者による整備を予定しており、市補助金額相当を計上しています。

2 事業スケジュール

現段階において想定する事業スケジュールは以下の通りです。新体育館については、2028 年度より設計、2030 年度より工事を実施し、2032 年度頃の供用開始を目指します。

